

IWC NEWS

創刊号

2003年6月1日

石川ウッドセンター発行



もくじ

発刊に寄せて

特集 依頼試験の受け入れ態
勢が整備される

業界紹介 株式会社 石森木工

木質構造紹介 つるぎの家

研究紹介 地域産材を利用した高信
頼性構造用材の開発

地域情報 小松地区

ニュースから JAS改正

人物 スタッフ紹介

とびっくす



JIS 圧縮試験

この四月から、石川県手数料条例が改正され、ウッドセンターにおいて依頼試験を受託するようになりました。

JIS Z 2101 の木材試験や、JAS の集成材の試験、日本住宅・木材技術センターの実大曲げ試験など 30 以上の試験を受付けております。

詳しくは、P.3 をご覧下さい。

発刊に寄せて

石川ウッドセンターは、木材に関する総合的な試験研究機関として平成5年に完成して10年が経過しました。この間、スギ、能登ヒバを主とする県産材の需要拡大に向けて、その材質性能や住宅構造部材などの新製品の開発と普及に取り組んできました。また、木材産業の振興のため、民間企業の方が機械設備を広く利用できるオ・ブン・ラボとして当施設の利用促進を図るとともに、県内の木材産業への技術支援に努めてきたところです。

しかし、木材産業を取り巻く情勢は、平成12年の建築基準法の改正や住宅の品質確保等に関する法律の施行、住環境におけるVOC問題などに見られるように、消費者重視の姿勢がより鮮明に打ち出され、大きく変化してきています。このような情勢の変化に対応するためには、これまで以上に私たち研究機関と木材業界の皆様方が様々な情報を共有していくことが重要であると痛感しているところです。このようなことから、この度新たに情報誌として「IWC NEWS」を発刊することになりました。この情報誌は、私たちの研究情報や地域の情報を伝達するだけでなく、業界の皆様方の提案や意見交換の場としても活用していただければと考えています。

今後皆様方のご意見、ご要望等をお聞かせいただき、この情報誌がより充実し、少しでも木材産業界の発展に寄与できれば幸いと願っております。

林業試験場長 西鍛治 肇

特集

依頼試験の受け入れ態勢が整備される

木材関連企業の皆様方から要望のありました、依頼試験に対応するため、この度石川県手数料条例が改定され、林業試験場において取り扱う、木材、木質材料および木質構造体の各種性能に関する試験等が追加され、本年4月1日から施行されました。その内容は下表のとおりです。

依頼試験の受付は随時行っておりますので、試験内容、手数料等の詳細につきましては、遠慮なく石川ウッドセンター（TEL 0761-93-1873）までお問い合わせ下さい。

依頼試験の内容

項目	内容	手数料（円）
木材基本性能試験	平均年輪幅、含水率、密度（全乾、気乾）、収縮率試験、吸水量試験、吸湿性試験、圧縮試験、引張り試験、曲げ試験、せん断試験、硬さ試験、部分圧縮試験、材色・色差測定、光沢度測定	400 ～ 31,220
材料強度および構造試験	実大曲げ試験、実大部分圧縮試験、短柱圧縮試験、長柱圧縮、座屈試験、欠点調査、パレット曲げ試験、パネルせん断試験、接合部試験、集成材浸漬はく離試験、集成材煮沸はく離試験、ブロックせん断試験	1,850 ～ 30,420
組織観察試験	組織観察（簡易検査）	5,010
木質材料試作試験	集成材試作、合板等試作、薬剤注入試験	5,210 ～ 23,210
木材乾燥試験	木材乾燥試験（3m ³ 以下）、棧積み	8,330 ～ 14,730
林業技術に関する情報の提供	情報提供料（コピー料）、写真撮影	10 ～ 1,620



業界紹介

木で創造し社会に貢献する

株式会社 石森木工 石森良洋さん



この3月で創業45周年を迎えた株式会社石森木工(金沢市増泉5丁目)。石森良洋さん(54)は、その二代目社長である。

元々建具製造から興った同社であるが、その後、家具加工、住宅内装・リフォームと事業展開し、現在では木造住宅の設計施工まで手がけるようになった。

工場では従業員の方々とともに働き、自由な発想から、「こんなものがあったら」というアイデアをそのまま製品にしてみる。そんな中から“ヤルキイス”や“箱座布団”など一風変わった、どこにでもありそうではない商品が産み出されている。

工場の一角を工房として一般に開放したり、自宅の一階を木製品のギャラリーとするなど、気さくでアイディアマンの社長から、ウッドセンターについて次のような提言をいただいた。

- * ウッドセンターが業界のために貢献してもらうため、性能試験の受託等について、より積極的であることを期待したい。
- ☆ 今年度より依頼試験に関する条例、規則の制定により、的確にご依頼に応える体制を整備いたしました。また、木材の人工乾燥技術について出張による指導の実施など、ニーズ応えております。
- * 林業試験場の分場という位置づけになっているが、もう少し自由に事業展開を考えてはどうか。
- ☆ 木材工業技術協会を通じての事業展開は可能と思いますので、ご利用下さい。
- * D・I・Yの潜在ニーズは大きいと思うので、キット加工など簡単な木工作が体験できると、より利用の裾野が広がるのではないかと。
- ☆ 施設の性格上、販売行為については難しい面もあります。一般公募や子供会行事としての木工教室等を通じて、裾野の拡大に努めて参りたいと考えております。

木を知り、余すところ無く使う石森社長の製品造りのポリシー、「木でなら何でも造り、創り出し、社会に奉仕する」を実感させる提言でした。



瞑想ルーム



箱座布団

モデルハウス紹介

つるぎの家

しらやま家づくりの会

白山比咩神社から車で2分ほど白峰方向に走り、右側にある製材工場の中を抜けると、その家がある。

しらやま家づくりの会が建てた「つるぎの家」だ。

しらやま家づくりの会は、鶴来谷の林業から建築業までの業界が集まり、地元の木を使って住宅を造ろうといういわゆる地産地消をめざした協同組合で、「木の家づくり」と題した勉強会を開き、消費者の立場になった活動をしている。その一つの成果が、この県産材モデル住宅「つるぎの家」である。

中に入ってみると、床にはスギが使われており、踏みしめた感じからスギ板の厚みを感じ取ることが出来る。適度に配置された珪藻土の壁は、室内の調湿効果は言うに及ばず、落ち着いた室内空間を演出するのにも欠かせない。ごろんと寝て見上げると、太くて大きい梁がポイントとなって、家の安心感が漂っている。そしてなによりも、家の持つ暖かみがまったく違うことに気がつかされる。昔の家の感覚を持った新しい住宅、それが「つるぎの家」の感想である。

(このコーナーでは、木材を使った建物や構造物を紹介していきます。)



研究紹介

【地域産材を利用した高信頼性構造用材の開発】(国庫補助研究課題)

目的は県産スギ材の住宅用構造材料への用途拡大と、利用歩留りの向上による廃棄物発生を抑制し、間伐材や製材端材の活用を図ることとしています。

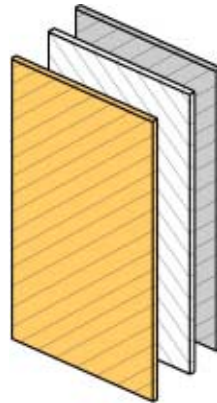
目標とした製品は、薄板(8mm)を交互に斜交させて積層接着したボード(下図参照)と小断面で高い剛性と軽量化をねらった横架材です。

ボードについては、3層以上の積層で、構造用合板に匹敵する強度、剛性を得られる目処がつき、製造コストや製造ラインについて検討を行っています。

横架材については、長スパンの湾曲集成材とタイロッドにより剛性を高めた梁や、先の積層ボードを腹材に用いて軽量化を実現したI型梁の試作と性能試験を行っています。



型梁



3層斜め貼りボード



地域情報

【小松地区の状況報告】

品確法の施行や建築基準法の改正により、住宅に使われる木材についても、より品質・性能の明確な部材を指向する傾向が高まっており、寸法精度の高い乾燥材に対する需要が高まっています。このような背景のなか、乾燥材の安定供給を目的とした製材所等の協同組合である南加賀木材協同組合の施設が平成14年度11月に完成し、操業を開始しました。

完成した南加賀木材協同組合の乾燥等施設は、かが森林組合那谷工場と一体となって稼働でき、原木の生産から販売、製材、加工、乾燥などの一連の機能が集積しています。この南加賀木材協同組合の今後が、石川県の木材産業、ひいては林業の浮沈の鍵を握っているといっても過言ではないと考えています。

そこで、かが森林組合、南加賀木材協同組合及び県林業試験場ウッドセンターと共同で、全国的に通用する乾燥材の生産にむけて木材乾燥試験を実施しています。乾燥材生産における課題はまだまだ山積していますが、今後も試験を繰り返しながら両組合の連携の強化を図り、乾燥材の安定供給体制を確立できるよう、より一層努力していきたいと考えています。



ニュースから

日本農林規格の一部が変わりました

日本農林規格の廃止、制定および一部改正の告示（農林水産 232～240）が、2月27日付けの官報（号外 39号）に掲載されました。これらの告示は、3月28日から有効となっておりますので、関係する方は、規格を今一度確かめる必要があります。

概要は以下のとおりです。

廃止

普通合板、コンクリート型枠用合板、構造用合板、特殊合板、難燃合板および防災合板の6品目（9規格）が廃止されました。

その理由は、これら6品目の規格は、ほぼ同一の製造条件で製造され、試験方法等共通の部分も多いことから、整理統合されることとなりました。

制定

合板の日本農林規格が制定されました。これは、上記6品目（9規格）の廃止に伴い、新たに合板として、1品目（5規格）として再編されました。下記にフローを付けましたので参考にして下さい。

廃止（6品目9規格）	制定（1品目5規格）
普通合板の日本農林規格 <ul style="list-style-type: none"> ● 表板に国産樹種の広葉樹単板を用いた普通合板の規格 ● 表板に国産樹種以外の広葉樹単板を用いた普通合板の規格 ● 表板に針葉樹単板を用いた普通合板の規格 	合板の日本農林規格 <ul style="list-style-type: none"> ● 普通合板の規格 ● 難燃性能 ● 防災性能 ● コンクリート型枠合板の規格 ● 構造用合板の規格 ● 天然木化粧合板の規格 ● 難燃性能 ● 防災性能 ● 特殊加工化粧合板の規格 ● 難燃性能 ● 防災性能
コンクリート型枠合板の日本農林規格	
構造用合板の日本農林規格	
特殊合板の日本農林規格 <ul style="list-style-type: none"> ● 天然木化粧合板の規格 ● 特殊加工化粧合板の規格 	
難燃合板の日本農林規格	
防災合板の日本農林規格	

一部改正

集成材、構造用集成材、単板積層材、構造用単板積層材、構造用パネル、枠組壁工法構造用たて継ぎ材、およびフローリングの日本農林規格の一部が改正されました。

制定された合板の日本農林規格と併せて改正された項目は、改正された建築基準法に基づく、ホルムアルデヒドの規制に対応するために、より厳しい基準を追加したこと、さらに、現行の「Fc0」の表記の0が、ホルムアルデヒドがまったく放散しないと誤解されることなどから「F」の様にマークで性能を現すようになりました。

人物紹介

このコーナーでは、木材や住宅に関わる人物の紹介をしていきたいと思います。まずはじめは、この4月の人事異動により、ウッドセンターのメンバーに少し変更がありましたので、定番のスタッフ紹介をしたいと思います。

能勢育夫 所長 兵庫県出身 大学時代は木材の物性を研究し、試験場勤務になってからはキノコー筋 30年。この4月の人事異動でウッドセンターの所長を拝命。

小倉光貴 科長 金沢市出身 大学時代は砂防工学。強度、材料開発に携わる。ウッドセンター設立当時のスタッフで、途中2年間の県庁勤務を経て現在に至る。

鈴木修治 主任技師 東京都出身 大学時代は木材の切削加工、今は材料開発、強度、廃棄物...etc 何でもやります(化学系は除く)。勤続7年目

松元 浩 技師 鹿児島県出身 大学時代は研削。4月から小松農林総合事務所より帰ってきました。強度、乾燥、材料開発...etc 何でもこなします。

松枝 章 嘱託職員 金沢市出身 樹木医、技術士...etc 多数の資格を持つ。木材工業技術協会担当

松井和男 嘱託職員 鳥越村出身 手先の器用さから、木製品の製作から左官仕事まで何でもこなしてしまう仕事人。

中西マリア 臨時職員 ロシア出身 ロシア語、英語、ドイツ語と語学にたける。今年一年ウッドセンターのお手伝いをしてくれます。

以上7名でがんばって参りますので、よろしくお願ひします。

編集後記

いかがでしたでしょうか? 構想から発刊まで1年以上の歳月が過ぎて、この度やっと石川ウッドセンターの広報誌「IWC NEWS」が発刊出来ました。

この広報誌の発刊趣旨は、ウッドセンターでの活動を御理解していただくということもありますが、林業、木材産業、建築業の情報の架け橋になることを目的としています。

現在、景気の低迷により、各業界とも良い話は少ないのですが、元気付けられる話は存在しています。下を見ずに、上を見て仕事をしている方々の協力が少しでも出来ればよいと思っています。

掲載内容に関しても、特集、業界紹介、木質構造物紹介、人物紹介、地域情報と皆様の役に立ちそうな(?)記事を掲載して行くつもりです。

皆様からの情報提供や、寄稿、投稿、写真もお待ちしております。また、うちではこんな面白いことをやっているから、是非取材してくれ等のご連絡も下さい。

今後は、年3回程度発行を目指していくつもりです。皆様のご指導、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

発行 石川県林業試験場 石川ウッドセンター
〒920-2306 石川県河内村吉岡東 75
Tel0761-93-1873
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/ringyo/iwc>
Email iwc@pref.ishikawa.jp